

氏名	吉田理人	学年/職名	M1
発表タイトル	最新の気象再解析データ ERA5 における南極域での大気重力波再現性		
発表要旨	数値予報モデルで得られる気象場に観測データを同化して得られる気象場の全球格子点データを再解析データと呼ぶ。数値予報モデルでは格子点間隔よりスケールの小さい重力波は直接再現できないため、パラメタリゼーションによってその効果を取り込む必要がある。一方、モデルの高解像度化が進み、再解析データ中で陽に表現される重力波の運動量フラックスやエネルギーを推定し観測と比較する試みも行われるようになってきた。しかし、観測で得られる値よりも振幅・強度が小さいという報告もされており、再解析中の重力波による効果の再現性を定量的に評価する必要がある。 南極大陸周辺部は重力波のホットスポットと呼ばれているが、その運動量フラックスやエネルギーの観測が不足しており、モデルの不確実性の要因の一つとなっている。そこで、南極域の重力波による運動量輸送を推定できるスーパープレッシャー気球観測が計画されている。スーパープレッシャー気球は等密度面を空気塊とともに動くため、成層圏下部における重力波の全周期帯（約 5 分～十数時間）の運動量フラックスや運動・ポテンシャルエネルギーの情報を面的に得ることができる。 本研究では、最新の気象再解析データ ERA5 を既存の様々な観測と比較し、各高度、各周期、地形性・非地形性毎での再解析データにおける重力波の再現性を調べ、2021 年頃に実施予定の南極での重力波のスーパープレッシャー気球観測との比較に向けた予備調査を実施することを目的とする。		
キーワード ・ キーポイント	・ 重力波 ・ 再解析データ ・ スーパープレッシャー気球 ・ 南極		